

## IV構造(11. 木構造) ①壁率比

「11. 木構造」で最も出題の多いのは、「壁率比」である。⇒ここは確実に理解したい。

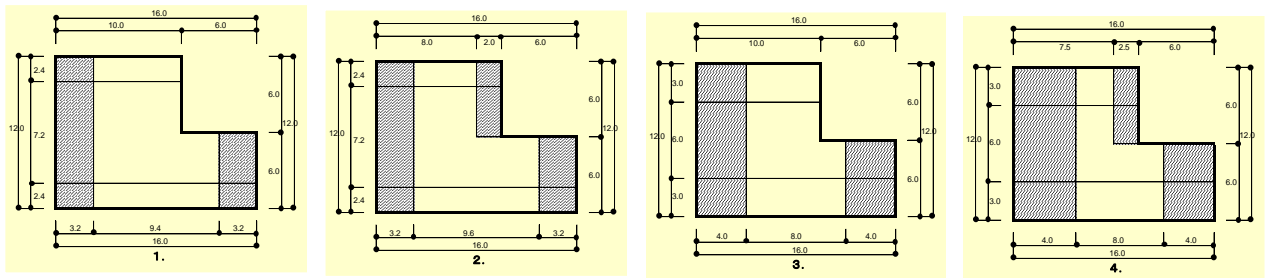
### (1) 壁率比

- 地震時等におけるねじれによる被害を防ぐため、壁率比が0.5以上となるように壁や筋かいを配置する。
- 各階の張り間方向及びけた行方向の偏心率が0.3以下であることを所定の計算により確認したうえで、軸組を設置する。
- 壁量充足率の側端部分は、張り間方向はけた行方向の、けた行方向は張り間方向の両端から1/4の部分とする。
- 壁量充足率は、各側端部分のそれぞれについて、存在壁量を必要壁量で除して求める。
- 張り間方向及びけた行方向で、「壁量充足率の小さいほう」を「壁量充足率の大きいほう」で除して壁率比を求める。
- 壁率比が0.5未満であっても、各側端部分の壁量充足率が1を超えていればよい。

### (2) 壁率比の範囲

- 壁率比は、両端の最も外縁から1/4の部分であり、形状がL型等の不整形であっても、最も外縁からとなる。

⇒従って、下記4種類であれば、3番が正しい。



### (3) 壁率比の計算

- XとYの壁率比は、「小さい方の壁量充足率/大きい方の壁量充足率」で求める。

$$X方向の壁率比 = (200/8) / (500/16) = 4/5 = 0.8$$

$$Y方向の壁率比 = (400/16) / (400/8) = 1/2 = 0.5$$

⇒従って、下記5種類であれば、5番が正しい。

	壁率比	
	X方向	Y方向
1.	0.5	0.8
2.	0.6	0.8
3.	0.8	0.8
4.	0.8	0.6
5.	0.8	0.5

